

『中等社会科 21 世紀型の授業実践 — 中学校・高等学校の授業改善への提言 —』

- ・ 編著者：井田仁康・伊藤純郎・唐木清志・栗原久・國原幸一朗・國分麻里・須賀忠芳
- ・ 学事出版、2015 年
- ・ 定価：2800＋税

【本書の特色】

21 世紀型能力を育成する中等社会科授業実践の本が完成しました。この本は現在、第一線で活躍する中等社会科教育学会会員 22 名の教師により実践、構想されたものです。すべての授業実践に編著者による説明がついており、今後の社会科および地歴科公民科を先導する役割を果たす本となっております。

はじめに

※執筆者の所属は 2015 年 3 月末日現在

第1部 社会科・地理

- 第1章 中等教育段階における地域調査のあり方／ 坂口克彦（都立豊多摩高等学校）
- 第2章 高等学校の地理授業におけるオリエンテーリング実習—地図を使った体験的な学習—／ 小林岳人（千葉県立松戸国際高等学校）
- 第3章 地理的な見方や考え方を育成するためのフィールドワークの実践—系統地理的学習のまとめとして—／ 川久保典昭（茨城県立水戸第一高等学校）
- 第4章 多文化共生をテーマにした高等学校地理Aにおける授業実践の取り組み／ 泉 貴久（専修大学附属松戸高等学校）
- 第5章 生徒の視野を広げるための世界地誌学習／ 中牧正寿（攻玉社学園攻玉社中学校・高等学校）
- 第6章 経済的な見方や考え方を深める地理の授業開発／ 山崎辰也（北海道立北見北斗高等学校）

第2部 社会科・歴史

- 第1章 社会科授業「クニマス発見！！—奇跡の魚、その謎を探る—」／ 秋田大学社会科教育研究室
- 第2章 記念碑から読み解く歴史学習—二つの「平和の塔」を手がかりとして—／ 高橋健司（鳥取大学地域学部）
- 第3章 絵画史(資)料を活用した「江戸時代の農業」の学習—「四季耕作図」の教材開発—／ 小川輝光（神奈川学園中学高等学校）

- 第4章 日本はなぜ原子力発電所を造ったのだろうか／篠塚明彦（弘前大学教育学部）
- 第5章 The Republic of Letters—近世ヨーロッパ知識人のネットワーク—／藤本和哉（筑波大学附属高等学校）
- 第6章 体験的な学習活動を取り入れた日本史授業の実践—近代以前の衣料原料を題材に—／石本由布子（茨城県立藤代紫水高等学校）
- 第7章 博物館を活用した教材開発能力の育成—大学教職科目「地理歴史科教育法」の授業実践—／田尻信壹（目白大学人間学部）

第3部 社会科・公民

- 第1章 政策的思考の育成をはかる授業—「政策えらび授業」の実践—／華井裕隆（埼玉県立浦和第一女子高等学校）
- 第2章 中等社会科における統合的な主題学習の可能性に関する考察—生徒が自ら「実感」を喚起しつつ学ぶ「集団的自衛権」についての授業実践例—／大木匡尚（都立農業高等学校）
- 第3章 経済リテラシーの向上をめざした中学校公民的分野「価格の働き」の学習—「経済観の段階的深化」を図る授業の組み立てと実践を通して—／岡野英輝（かすみがうら市立千代田中学校）
- 第4章 格差社会—ジニ係数で考える—／齊藤 康（静岡県立掛川西高等学校）
- 第5章 消費者市民社会をめざす社会科教育実践—コンゴの紛争資源問題と日本の消費生活のつながり—／華井和代（東京大学大学院）
- 第6章 自分を知るとは？—フロイトの無意識から考える—／西尾 理（都立国分寺高等学校）
- 第7章 高等学校「倫理」における問答法を実践する授業—「幸福」と「正義」について対話する—／村井大介（筑波大学大学院）
- 第8章 多様な調査活動と表現力の育成を重視した「現代社会」の授業—視覚特別支援学校（盲学校）での実践を例として—／丹治達義・青松利明（筑波大学附属視覚特別支援学校）
- 第9章 バナナから見るグローバリゼーション—地理歴史科と公民科の授業連携をめざして—／福田喜彦（愛媛大学教育学部）

編著者および執筆者一覧